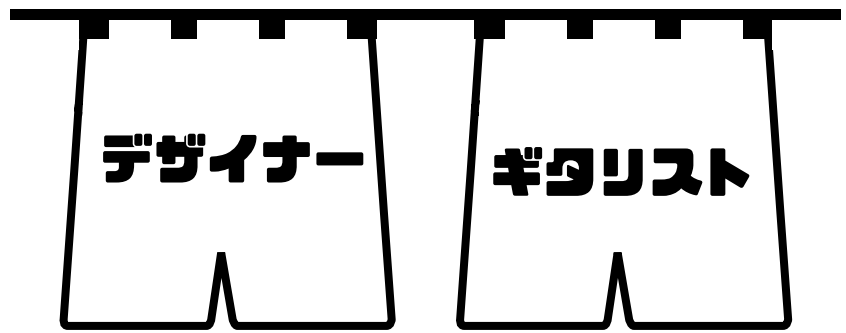


ちゃんと、言っていこう。



岸田総理、あなたは正しい。私は、日本社会を、根本的に変えることを要求しているのです。

もし銭湯の暖簾（のれん）に「男」「女」と書かれているのではなく、「デザイナー」「ギタリスト」と書かれていたら、どう思いますか？あなたはどちらに入りますか？

性別というのは実態ではなく妄想でしかないわけで、男女を分けるというのは、結局こういうことでしかありません。「そもそも正確に二つに分けることは不可能」であり、かつ必ずどちらにもあてはまらない人（あまり）が出てきます。

それでもあえて強引に「男女」の二つに分けるのであれば、誰がそこに入る権利があるのか。自分で、望ましいと思う方に入るしか方法がありません。他人にとってその人がどの性別の人に見えるか、は関係ありません。

もしあなたが本当にトランスジェンダーの権利を支持するのであれば、はっきりとこう言わなくてははいけません。

「身体の手術をしているかどうかに関わらず、自身のことを女性だと考える人は、女湯に入る権利がある。銭湯が入浴を拒むことは、トランスジェンダーに対する典型的な差別だ。」

現実には、その銭湯を使う人たちの間での合意形成をはかっていく、という事になることが多いでしょう。しかし、少なくとも考え方としては、このように理解する以外に方法がありません。

（ただ銭湯で言えば、スーパー銭湯が刺青やタトゥーのある人の入場を拒否するという明確な差別が実践されていたりするわけで、トランス差別だけが先に簡単に解消する、ということにはならないでしょう。）

「男」「女」といったときに思い浮かべるあなたのイメージ。ほとんどの人には、そのイメージ自体を根本的に変更して頂く必要があります。

保守的な人にも受け入れてもらうために、大事なことをぼやかした言い方をする運動も増えてきました。でも、ちゃんと言っていきましょう。

トランスジェンダーは、社会の変革を要求する。

「男女という制度」を解体しよう！

性別二元主義を解体しよう！



ひびのまこと

<http://barairo.net/>

hip@barairo.net

（日本語で、トランスジェンダーの権利宣言を出してみませんか？興味ある方はご連絡ください）